

これが、本物の 「カムイワツカ湯の滝」だ



もうもうと立ち上る湯けむり

四の滝は落石で埋まってしまいましたが、四の滝を上がると五の滝にかけて、大自然を体験できる場所がたくさんあります

大阪市立自然史博物館外来研究員 山本睦徳

2021年、ガイド付きで1回6人まで、協力金を払うという条件で四の滝の手前まで行けるようになりました。しかし、本当に火山の恵みを体験できるのは、四の滝より上流です。四の滝から五の滝にかけて70℃前後の温泉が岩の隙間から湧出しており、温泉浴や自然観察など知床の大自然を体験できる素晴らしい場所です。私は、観光客がここに入れるようにしたいと考えています。

四の滝と五の滝の間は、こんなところです。



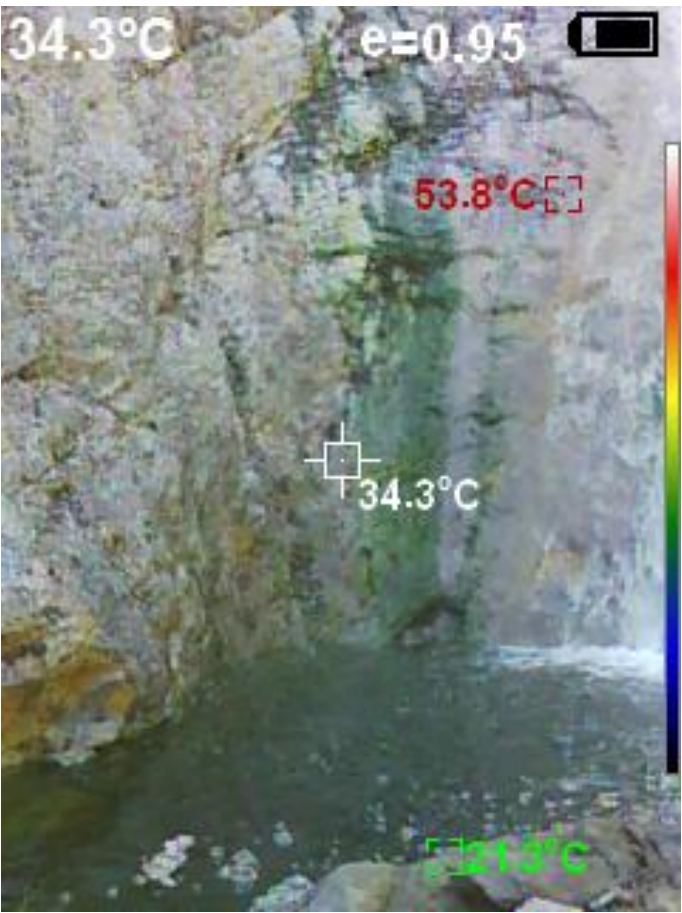
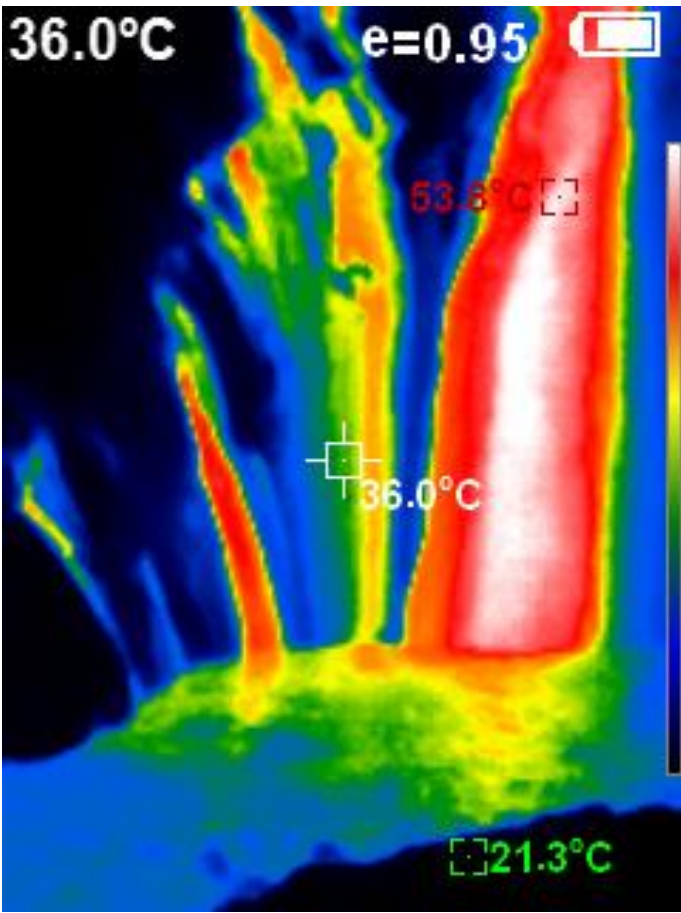
右岸の崖からは70℃前後pH=1.5の強酸性の温泉水が湧出していて、火山の恵みを実体験できます。
温泉の中で生息するバクテリアで緑色に染まる



温泉浴が可能



温泉タマゴ 作れます！
生卵を50分ほど漬けておくと温泉タマゴができあがり。
強酸性のお湯で殻は二酸化炭素を出しながら溶けます。



五の滝の滝つぼのお湯は40℃を超え、入浴に適しています。

落石の危険はどうか？

四の滝と五の滝の間の右岸には、多数の亀裂が入った黒色の溶岩があります

五の滝へ行くには
左側の落石危険か所を回避して
四の滝の右側の岩を登ります



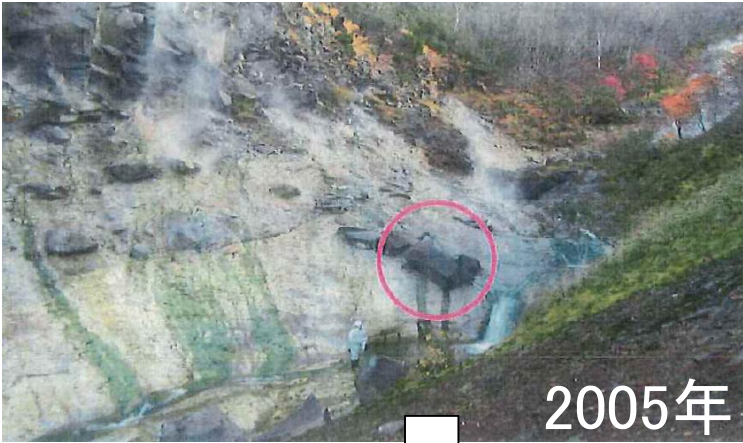
亀裂が多い
黒色の溶岩
(安山岩)

温泉沈殿物
で固まった
礫層

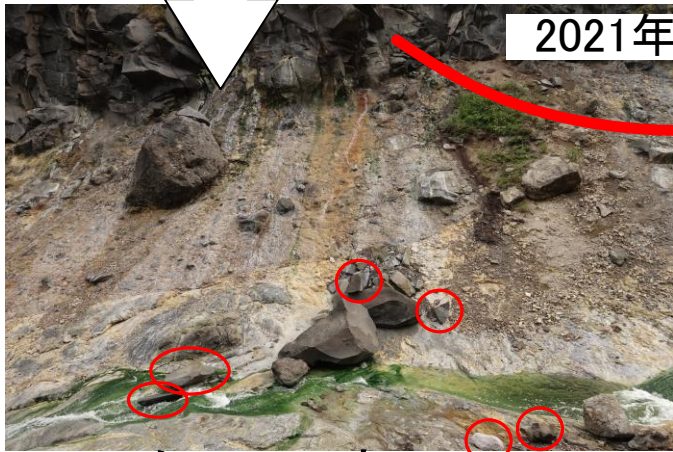
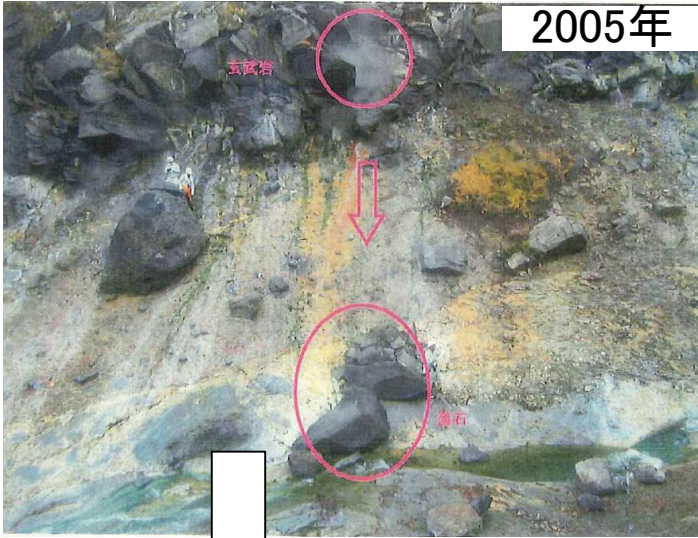
岩盤

どのくらいのリスク？

2005年に林野庁がカムイワツカ川を調査した際の四の滝と五の滝の間の写真と現在の写真とを比較すると、落石の状況がわかります。



落石は増えていない。



2021年の写真では、
落石が6個増えている。

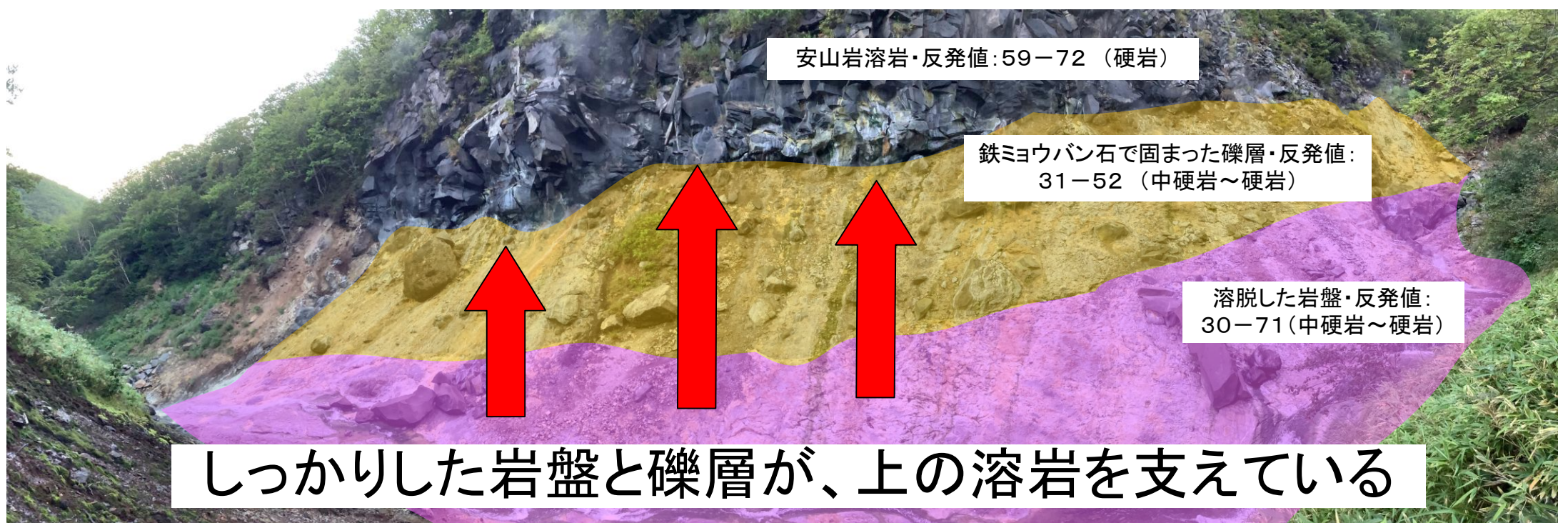
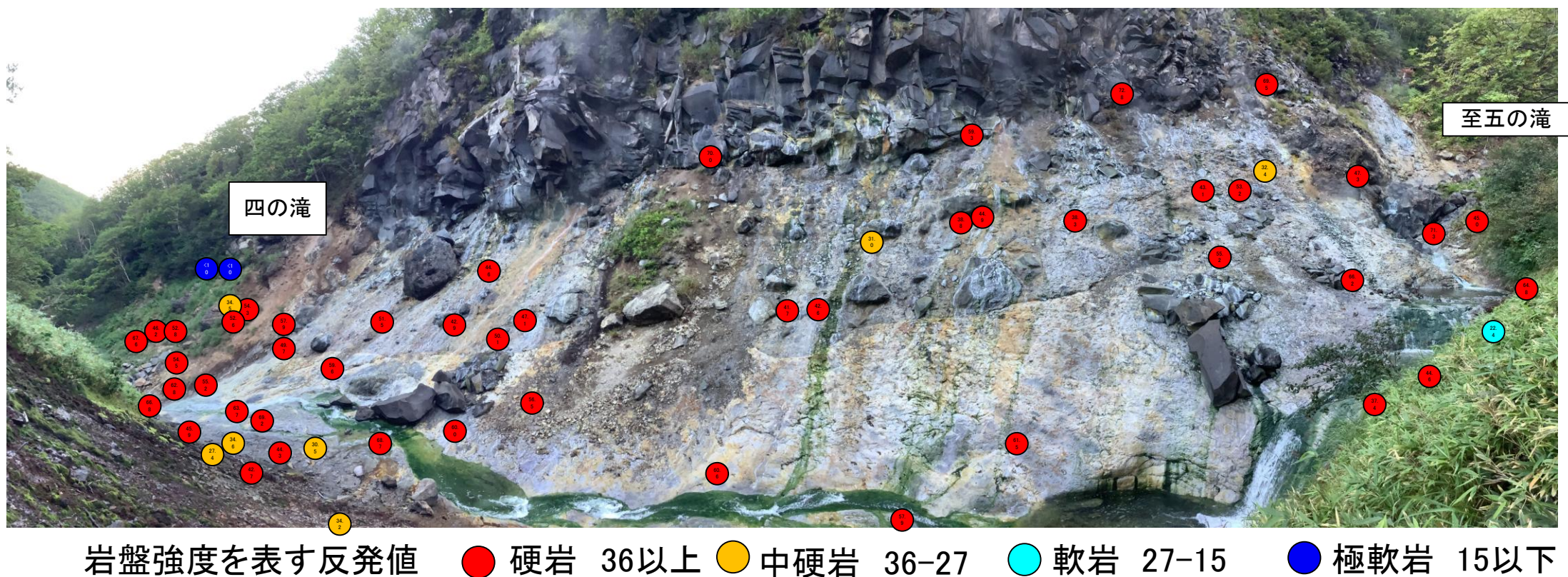
最大のリスクはこ
こにあります



ここでは立ち止まらず
速やかに通過すること
で、リスクを軽減できる

16年の間に四の滝と五の滝の間で、上の黒色溶岩から落ちた岩は確認できたもので6個だけです。これは、2年8カ月に1回の割合で落ちたことになります。これくらいのリスクなら許容範囲ではないでしょうか。

黒色溶岩は、崩れそうに見えますが、わりとしっかりしています
岩盤強度を計測したところ、黒色溶岩の下は、ほとんど「硬岩」という硬い岩盤
(赤色丸)か、「中硬岩」(黄色丸)という硬い岩石で構成されていることがわかり
ました。



黒色の溶岩は、見た目は今にも落ちそうに見えますが、実際にはしっかりした岩盤で支えられていて、崩落を防いでいるようです。事実、落下した岩は少なく、河床は白く溶脱した岩盤が露出しています。

まとめ

- 四の滝と五の滝の間は、温泉の湧出か所や入浴に適した温度の滝つぼなどがあり、自然観察や野外入浴に適した場所です。
 - 黒色の溶岩は、多くの亀裂が入っていますが、その下の岩盤がしっかりとささえているので落下しにくいです。
 - 実際に2005年からの16年間で落ちた石は、写真で確認できるのは6個ていど
 - ただし、岩が外れかけているところがあり、危険ですので、対応が必要です。その下では長時間立ち止まらないよう看板を立てるなどの対策を施すことで、事故を未然に防ぐことができると考えます。
 - 大雨の後などは、一時的に立入を制限するなどの対策を
- 私は、知床に来た人たちに、本物のカムイワツカを体験してほしいと思います。

この資料のアクセス先: <http://www.earthscience.jp/gonotaki.pdf>